

平成25年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

大阪市立 平林小学校

児童数

55名

平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	41.8	30.4	65.6	41
大阪市	59.1	46.6	75.9	56.4
全国	62.7	49.4	77.2	58.4

平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	22.6	26.2	2.6	15.8
大阪市	11.5	14.2	1.9	6.5
全国	10.7	13.6	1.7	6.3

結果の概要

平均正答率は、国語・算数とも全国・大阪市よりも低い結果となっている。この結果から、国語では、「話す・聞く・書く・読む」という言語力と表現力が低いこと、および読解力が弱いことがわかる。算数では、「数と計算」の基礎・基本は少し身についてきているが、「数量や図形」については、厳しい結果がでている。しかし、漢字や計算、量と測定については大阪市に近い値を示しており、がんばりの跡が見られる。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

習熟度別少人数授業では、児童の思いや意欲を尊重しながら、2クラスを3分割したり、クラス内で2分割したりして、個に応じた指導方法を実施している。自分なりの取り組み方で問題解決しようとする意欲とともに問題解決できた成就感を味わわせることに重点を置いている。学級では学習の定着ができていない児童に対しては、放課後の時間を有効に活用し、個に応じた補習を行っている。また、放課後のステップアップ事業では、学習の習慣づけを身につけるようにしている。

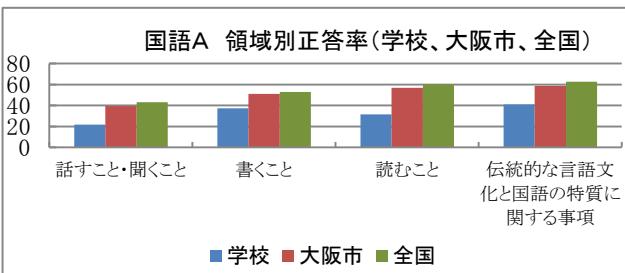
今後は、「話す・聞く・書く・読む」の力を付けさせるために、言語力や表現力を高める活動に重点をおいた指導計画を立て、学習を進めていく。発表活動や話し合い活動を活発にしたり、ノート指導を工夫して考えを書く活動を充実させたりして、自分の思いを表現できるようにする。また、朝の読書タイムを活用し、学級における読書指導をさらに充実させるとともに、学校図書館開放を有効に利用し、貸し出しや読み聞かせ等を活発に行い読解力の向上に努める。基礎基本の反復練習や復習に取り組ませるとともに基礎基本の反復練習を家庭でも定着させていく。全学年でステップアップ事業を継続させ、続けて学習の習慣化を図っていく。

【国語】

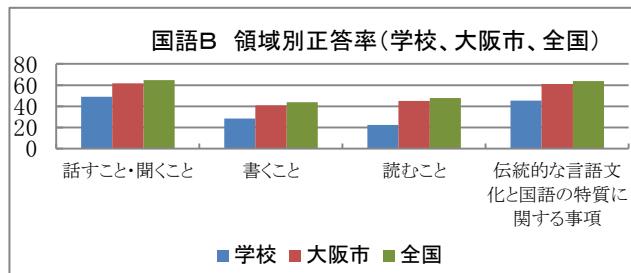
結果の概要

国語A・Bとも平均正答率が低い。国語の基礎基本である「話す・聞く・書く・読む」の力が弱いことがわかる。また、児童質問紙からは「国語の勉強は好きではない」「自分の考えを書くとき考えの理由がわかるように気をつけて書いていない」児童が多いことがわかる。学力検査の結果には、読むことと書くことが非常に苦手であることが表れている。

A 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	21.8	39.5	43.2
	書くこと	4	37.3	51.1	53.0
	読むこと	3	31.5	56.8	60.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	15	41.0	58.7	62.6

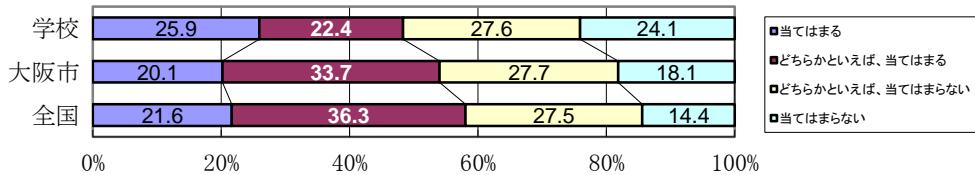


B 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	49.1	61.7	64.8
	書くこと	4	28.6	41.0	43.8
	読むこと	4	22.3	45.1	47.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	45.5	61.0	63.8

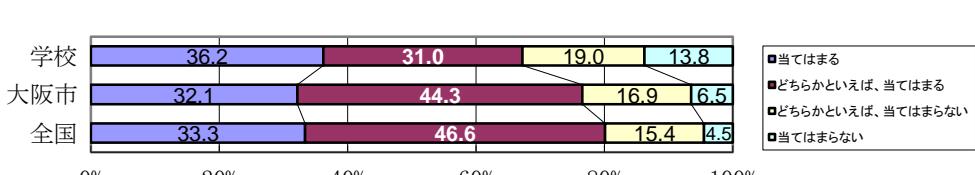


国語に関する「児童質問紙」

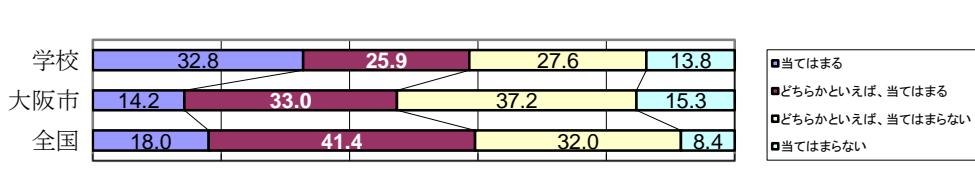
I 53 II 52 III 62
国語の勉強は好きですか



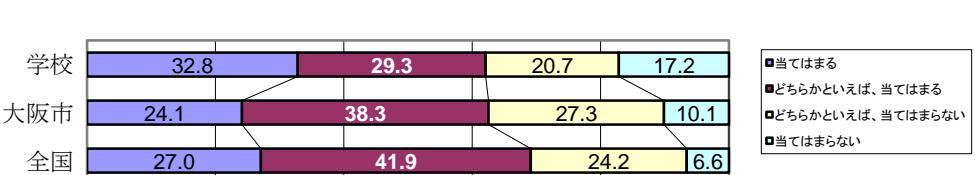
I 55 II 54 III 64
国語の授業の内容はよく分かりますか



I 58 II 57 III 67
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



I 60 II 59 III 69
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるよう気を付けて書いていますか



成果と課題

言語力や表現力を高める活動を取り入れた指導計画を立て、言語の力を高めることに重点を置いていく。話し合う活動を活発にしたり、ノート指導を工夫し、意見を書く活動を充実させたりして自分の思いを表現できるようにしている。朝の読書タイムを持ち、学級における読書指導を充実させている。読解力や書く力・表現力を高める指導を工夫することにより言語力を向上させることが本校の課題である。

今後の取組

貸し出しや読み聞かせ等の機会を増やすなど、学校図書館を大いに活用することで、学級での読書指導を充実させる。また、読む力を向上させるために様々な文章や資料を読む機会を与えたり、表現力を向上させるために継続してノート指導や作文指導をていねいに行ったりする。これらの活動を通して言語力向上に努める。

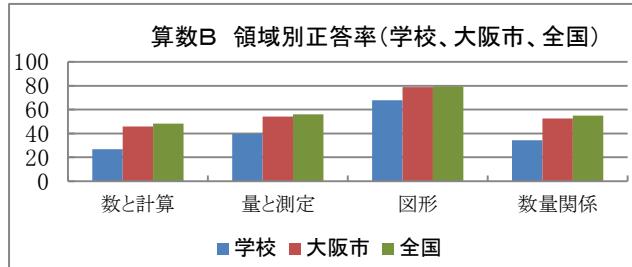
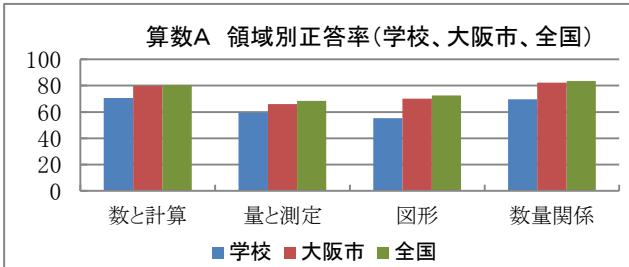
【算数】

結果の概要

算数A・Bとも平均正答率が低い。「数と計算」の基礎・基本は身に付いてきたが、複雑な問題を適切な計算のきまりを使って解いたり、文章問題を読んで理解したりすることが苦手である。児童質問紙では、「算数の勉強は好きではない」他、消極的な意見が多い。「図形」「数量」については苦手な部分が見られるが、「量と測定」については、大阪市に近い値が出ており、がんばりの跡が見られる。

A 問題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と計算	8	70.7	79.8
	量と測定	4	59.5	66.0
	図形	3	55.2	70.2
	数量関係	4	69.5	82.2

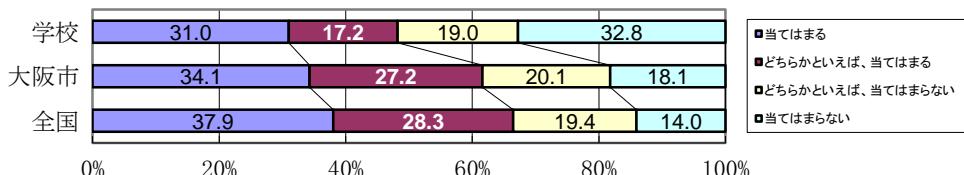
B 問題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と計算	3	26.7	45.7
	量と測定	7	39.7	54.1
	図形	3	67.9	78.8
	数量関係	7	34.3	52.4



算数に関する「児童質問紙」

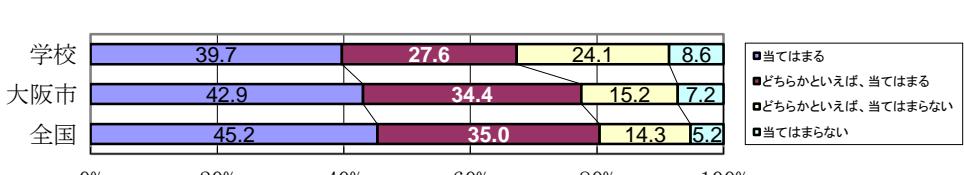
I 73 II 62 III 72

算数の勉強は好きですか



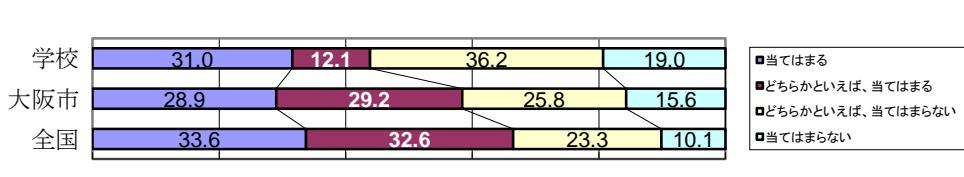
I 75 II 64 III 74

算数の授業の内容はよく分かりますか



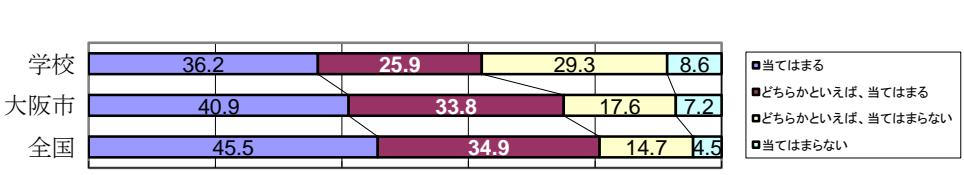
I 78 II 67 III 77

算数の授業で学習したこと普段の生活の中で活用できないかを考えますか



I 81 II 70 III 80

算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか



成果と課題

習熟度別少人数授業では、児童の思いや意欲を尊重しながら、2クラスを3分割したり、クラス内を2分割したりして、個に応じた指導を実施している。自分なりの取り組み方で問題解決しようとする意欲を持たせることと問題解決できた成就感を味わわせることに重点を置いている。これらの取り組みを継続することで、計算の基礎基本を定着させることと、「図形」と「数量関係」の理解度を高めていくことが本校の課題である。

今後の取組

今後も習熟度別少人数授業を継続し、基礎基本である「数と計算」について、反復練習を繰り返し行う。「図形」や「数量関係」は2極化の傾向があるため、習熟度別少人数授業において個に応じた指導方法を工夫していく。また、考える力をつけるため、文章問題を多く取り入れて、計算式をつくったり文章で答えを書いたりする練習に取り組んでいく。

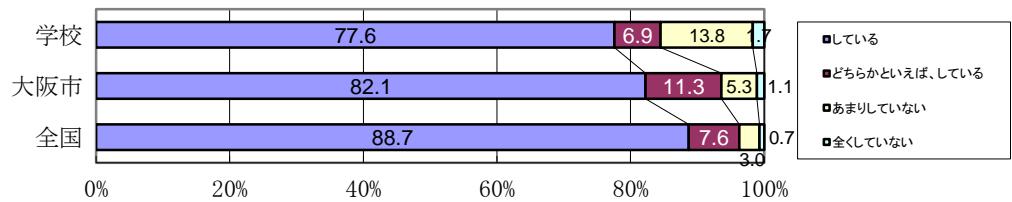
基本的生活習慣・自尊感情・規範意識

結果の概要

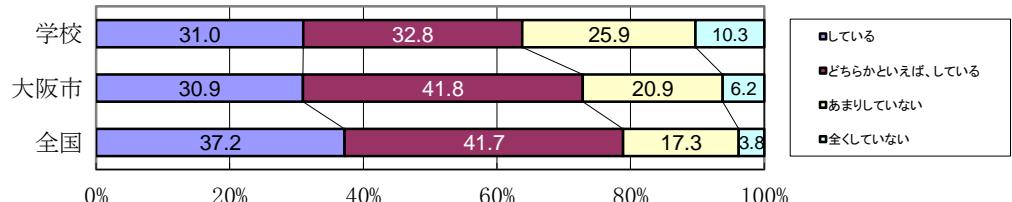
基本的生活習慣・規範意識ともに全国および大阪市の平均より低い傾向にある。「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の質問に対して本校は全国・大阪市よりも低い。睡眠時間の長さや朝食を食べるかどうかは、学校の授業での集中力に影響してくる。自尊感情である「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対しては、肯定的な答えの割合が大阪市より高い。自分の良いところを認める気持ちと、大人などの他者からも認められたいという気持ちが表れていると思われる。

質問番号	質問事項
------	------

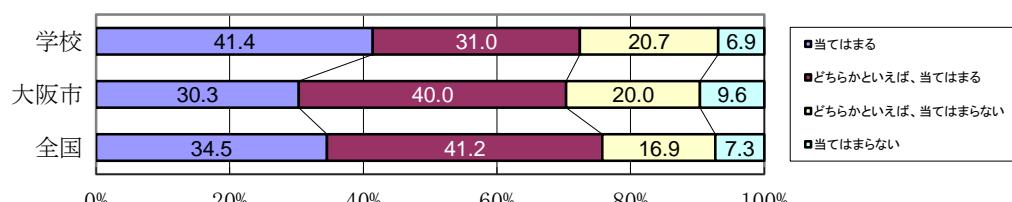
I 1 II 1 III 1
朝食を毎日食べていますか



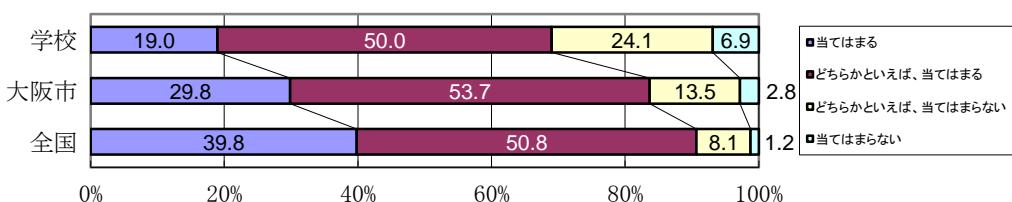
I 2 II 2 III 2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



I 6 II 6 III 6
自分には、よいところがあると思いますか



I 44 II 41 III 44
学校のきまりを守っていますか



成果と課題

基本的生活習慣や規範意識については、学校での子どもたちの様子を電話連絡や学年だより・学級だより、学級懇談会を通して平素から周知をしている。家庭とより一層連絡を密にするとともに、きまりを守り自己を大切にする子どもを育てる教育を推進していくことが課題である。

今後の取組

自尊感情を高められるように、学校でも地域・家庭でも良いことをしたら褒めて認めてやることを心がけたい。基本的生活習慣や規範意識の習得については学校と家庭が協力し、これまで以上に連携を深めていく。特に、規範意識を高めるために、学校のきまりを守る大切さを理解させるとともに、思いやりの気持ちや助け合う気持ちを育てたい。

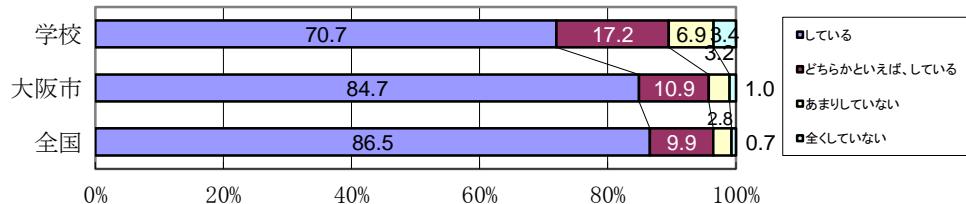
家庭学習・読書・学びの質の改善：言語力の育成

結果の概要

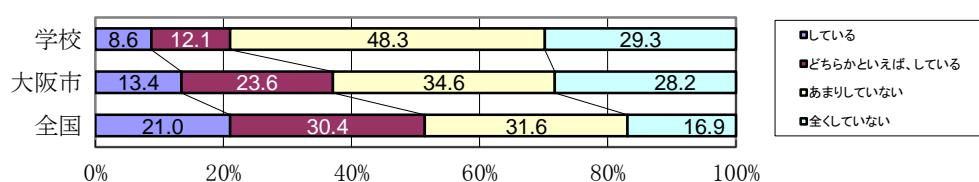
児童質問紙の宿題、復習、読書に関する回答の厳しい結果が、国語A・B、算数A・Bの正答率に表れている。宿題を忘れずにするなど家庭学習の習慣が全国・大阪市より低い結果がでている。また、「読書」についての関心が低いように思われる。

質問番号	質問事項
------	------

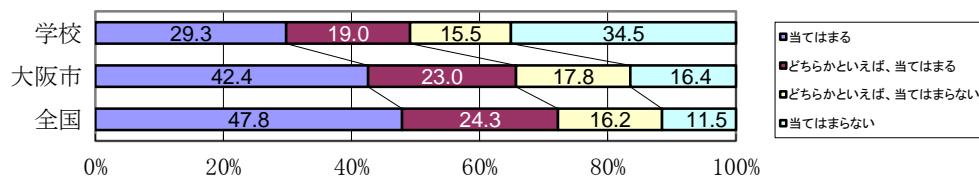
I 30 II 25 III 35
家で、学校の宿題をしていますか



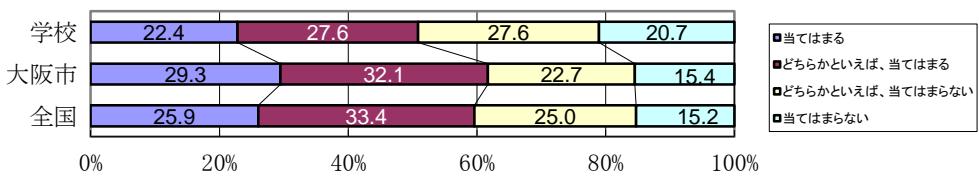
I 32 II 27 III 37
家で、学校の授業の復習をしていますか



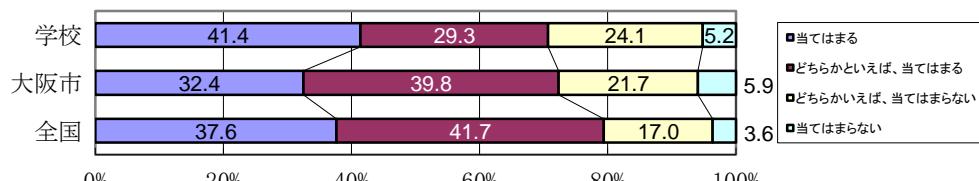
I 56 II 55 III 65
読書は好きですか



I 52 II 51 III 60
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか



I 50 II 48 III 56
普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか



成果と課題

ステップアップ事業を通して、学習の習慣化が身についてきつつある。また、学校だよりや学級だより、懇談会等において、家庭の教育力向上につながる支援を発信している。読解力をつけるため、学校図書館を活用し、貸し出しや読み聞かせ等を充実させている。しかし、結果にはまだまだ表れてきていない。平素の授業では、学校図書館の利用・朝の読書タイムの活用などで読解力をつけさせることや反復練習を繰り返すことで説明力・書く力をつけさせることが課題である。

今後の取組

言語力や表現力を高めることに重点をおいた指導計画を立て、学習を進めていく。読書好きの子どもを育てるために、学校図書館を大いに利用させ読解力を向上させる。説明力や書く力、話し合う力を身につけさせるため、ノート指導の工夫や児童が発表する場の設定をしていく。また、家庭学習の習慣化に向けて、今後も継続して電話連絡、学校だより、学級だより、懇談会等で保護者に啓発していく。